

ものづくり補助金 ヒアリングシート HMO1(1)(農業)

社名	株式会社 はままつ農園	代表者	浜松 太郎	業界事例
住所	静岡県浜松市東区〇〇町〇〇-〇	電話	053-000-0000	

ものづくり補助金 ヒアリングシート	個別シート
<p>(1) どのような新しい事業(革新的な事業)を考えていますか</p> <p>メロン栽培において、AIを活用した自動灌水システムを導入することで、現在4時間/日を要している人手による灌水(かんすい)作業を20分に削減する。</p>	<p>・補助事業名【KM03】</p>
<p>(2) 他社に比べて自社の商品の特徴や技術的な強みはありますか</p> <p>①商品の特徴 ……品質の高さと、出荷数の多さ</p> <p>②技術や技能 ……先代から39年にわたって培ってきた温室メロンの栽培技術と、実績</p> <p>③売上や利益は ……直近4年間、売上は3,000万円台を維持・利益は黒字</p>	<p>・過去の売上推移【KM01】</p> <p>・過去の利益推移【KM01】</p> <p>・商品の特徴は【KM01】</p>
<p>(3) 顧客はだれでしょうか</p> <p>①顧客……温室農業協同組合を経由して販売している、百貨店、フルーツショップ、料理店など</p> <p>②地域は……全国、海外</p>	<p>・市場は【KM11】</p>
<p>(4) 革新的な製品やサービス(補助事業)とは何でしょうか?</p> <p>①新規補助事業のタイトルを30文字で書くと(キャッチコピー)……</p> <p>メロンの温室栽培における、IoT、AIを活用した自動灌水システムの導入</p> <p>②課題は何でしょうか……</p> <p>灌水作業に手間を要している。現状においては、土日も含め毎日4時間、手作業で実施。現状の生産体制では、売上拡大は難しい。出荷単価は市場の需要などの要因で決まるが、近年はほとんど出荷単価が上がっていない。</p> <p>③対策案はありますか……</p> <p>出荷数量を増やすこと。そのための対応策としてIoT、AIを活用した灌水システム導入を検討。当システムの導入により、現在人手に頼っている灌水作業が自動化される。これによる生産性向上により、出荷数量の増加が見込まれる。</p>	<p>・補助事業内容【KM03】</p> <p>・現状の課題【KM02】</p> <p>・課題の対策案【KM03】</p> <p>・効果予測【KM04】</p>
<p>(5) 補助事業のマーケットは</p> <p>①補助事業のマーケット(市場)は……</p> <p>メロンの消費、贈答品の市場規模とも縮小傾向にある。特に近年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、需要はさらに低迷している。</p> <p>②設備投資等を回収できますか……</p> <p>生産効率向上に伴い生産数量の向上が見込まれることから、売上高、および営業利益の増加により、設備投資は5年程度での回収を計画。</p>	<p>・マーケット【KM11】</p> <p>・将来展望【KM12】</p>
<p>(6) 補助事業の実施体制やスケジュールは</p> <p>①導入設備、又は新規補助事業は……</p> <p>自動灌水システムの導入</p> <p>②補助事業の実施体制……</p> <p>当社メンバーに、技術指導の専門家、システムベンダーなどを加えたプロジェクトチームで対応。</p> <p>③補助事業のスケジュールは……</p> <p>システム開発～導入・灌水設備などの設置、および動作検証・調整期間として10ヵ月。</p>	<p>・導入設備【KM05】</p> <p>・開発体制【KM06】</p> <p>・導入スケジュール【KM06】</p>
<p>(7) 補助事業の売上、利益は</p> <p>①補助事業の売上計画は…… 1年後:4,000,000 2年後:6,500,000 3年後:8,800,000</p> <p>②補助事業の営業利益計画は…… 1年後:1,200,000 2年後:1,850,000 3年後:2,500,000</p> <p>③地域への波及効果(雇用等)は……地域のメロン農家への技術波及が見込まれる。</p>	<p>・補助事業の売上【KM12】</p> <p>・会社全体売上【KM13】</p>

